

大学院研究科の新たな展開

研究科専攻長 中村 美砂

2006(平成18)年に開学した大阪河崎リハビリテーション大学は、リハビリテーション専門職の養成を目的とした活動を通じて、2千人以上のリハビリテーション専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)を養成してきました。これまでの19年間、本学は研究・教育活動の拡充に努め、2021(令和3)年に大学院リハビリテーション研究科を開設し、第1期生と第2期生に修士号を授与しました。大学院の卒業生は地域リハビリテーションのリーダーとして活躍しており、本学大学院が提供してきた教育プログラムは、大学院生・社会からも高い評価を受け、2025(令和7)年3月には完成年度を終了することになります。

令和7年4月から、さらに本学大学院の教育プログラムを充実させるために、特別研究の指導教員を増やし、リハビリテーション関連領域に拡大した研究・教育活動を展開することになりました。それに伴い、これまではリハビリテーション専門職に限って受け入れてきた入学者の資格を拡大して、リハビリテーション専門職に加えて看護師などの医療関係資格を有する者としてしました。この医療関係資格は原則として医療系国家資格を想定しており、臨床検査技師・技師装具士など多くの国家資格が含まれます。多くの方に本学大学院で学んでいただきたいと思います。

さらに、令和8年4月に大学名を「大阪河崎リハビリテーション大学」から「和泉大学」へと変更する予定です。この大学名称変更は、リハビリテーション専門職の養成大学から地域に密着した総合的な研究・教育機関へと発展するための重要なステップとなります。

和泉大学のビジョンは、超高齢社会に対応する健康創成社会の構築を目指し、ウェルビーイングを重視した近未来のリハビリテーション専門職を養成することです。また、リハビリテーション領域の新技术開発や機能性食品などの地域資源の活用を通じて、認知機能の維持や健康寿命の延伸に貢献し、その成果を地域および国際社会へ還元することを目指しています¹⁾。

これらのことを実現するために、大学院教育プログラムの変更を行う予定です。入学対象者をこれまでのリハビリテーションを含む医療専門資格を持つ方々から、健康科学に関心を持つ方々に拡大します。そして、従来の運動機能科学領域、生活行為科学領域、コミュニケーション科学領域をリハビリテーション領域として統合し、新たにヘルスプロモーション領域を設置します。さらに学部と連携して従来の園芸療法とデータサイエンスといった副専攻を設置することで、より多様な学びを提供することになります。このような改革により、学生は健康科学分野における様々な課題に対処するための知識とスキルを身に付け、専門性を高めることができることになります。これまでに培った教育力と研究力を活かし、2つの領域が連携し合うことで「健康創生社会の構築」に近づくことを願っています。また、新しい大学名と新たな領域での挑戦が、本学に新しい風を吹き込み、さらなる発展へとつながることを期待しています。

大学院開設からあつという間の3年間でしたが、この間、教員として大学院生の2年間の研究における成長を近くで拝見できることは、教員の醍醐味だと実感しています。本号では、院生の修士論文と学会発表報告などを掲載しています。彼らの1、2年間がここに詰まっています。院生の1期生とのつながりも強く、今でも研究を通じた交流が続いています。本学大学院の教員と院生は、このような教育研究を通じて、これまで以上に社会への貢献を続けていきたいと思っています。

¹⁾ 武田雅俊、篠崎和弘 和泉大学への大学名称の変更 大阪河崎リハビリテーション大学紀要, 19: 2-7, 2025.